

# ひとを育てる活動

## キアミ橋のその後

昨年ナブル小学校を訪ねた時(詳細P5)のことで、ひと山越えたバンリという集落の長老が私たちに会いに来ており、ナブル地域担当のイトック神父とともに、話を聞きました。ナブル小学校ができて、バンリの子どもたちが学校へ行けるようになり嬉しいが、片道2時間かかる子もいる。できればバンリに分校を作ってもらえないかという相談でした。

教室建設資金のほか、辺境で働く教師の確保、その給与など、分校といえども簡単に応じられる話ではありません。

キアミの近くに公立小学校ができたので、以前から、キアミ校を閉鎖する案もありました。ただ、公立小へ通うには川の中を渡らなければならなかったのですが、キアミ橋ができた今、公立小へは橋を渡って通学できます。キアミ校を閉鎖すれば、新しい分校建設も可能です。ただ、キアミ小開校時に、子どものために学校周辺に越してきた10世帯余りの住民もおり、また多数の住民はCMIP校存続を望み、説得問題がエドウィン神父の新たな課題です。

キアミ小1・2年クラス。担任のアグネスは、同期のマリナとともに、昨年秋の教師国家試験に合格しました。



昨年末に、「キアミ橋の橋脚付近の浸食が激しく、本格的雨期開始までに護岸工事をしたい」という支援要請が届きました。

まずは、村に要請するように伝えたところ、年明けに、村は選挙前で議員からの支援約束は禁止されている上、財政難の村に多くを期待できない、一部だけでもと再度要請を受けました。幸い橋建設に充当させていただいたFY基金が残っており、資材費・輸送費の一部10万ペソを支援させていただくことにしました。キアミの場合、何度も川を渡ってジェネラルサントスからトラックで資材を運ぶので、どうしても輸送費が嵩み建設費を押し上げます。村の支援により、雨期前に護岸工事が完了して、6月の新学期に安心して橋を渡る子どもたちの元気な姿を見たいと思います。

## クリスマスプレゼントありがとう!



— ブラクール校のクリスマスパーティー —  
皆様からいただいたクリスマス基金のうち3万円をブラクールへ送りました。パーティーで料理とプレゼントに約4割を使い、残り18,000円分は学年末までの給食費に充てたいとのことです。現在ブラクール支援会員は13名で、小学校教師3名の給与を支えています。給食は、生徒が薪と野菜を持参し、アメリカからの支援金で米や肉を買っていますが、支援金が不足してきたようです。

CMIPには、カレッジ・ハイスクール奨学生40名分と小学校7校用に600ドル(約5万円)届けました。ご協力ありがとうございました。

## 卒業生近況

HANDS奨学生同窓会が12月29日開かれ、ジミーから写真報告が届きました。ジミーは3年前にITコースを卒業し、CMIPでのボランティア勤務終了後、母校MSUで教職単位を取得中です。管理職で多忙な同窓会長ドリ(HANDS奨学生の教師国家試験合格1号)の都合で、ドリの勤務先に近いアラベル町のビーチに7名が集まりました。半分以上は教師など公務員です。4月にコロナダで再度集り、役員改選や会費の一部を先輩の奨学金に充てることなど話し合う予定です。多くの卒業生が同窓会に出席して、近況報告を受けたいところですが、定職に就いていないと交通費捻出も大変で、参加しにくいようです。



後列左から  
アナリン(教師)  
ジミー(学生)  
ヘンリー(元教師)  
ドゥウィン(教師)  
前列左から  
スヌリア(役場)  
ドリ(教師)  
ジョリ(農業)